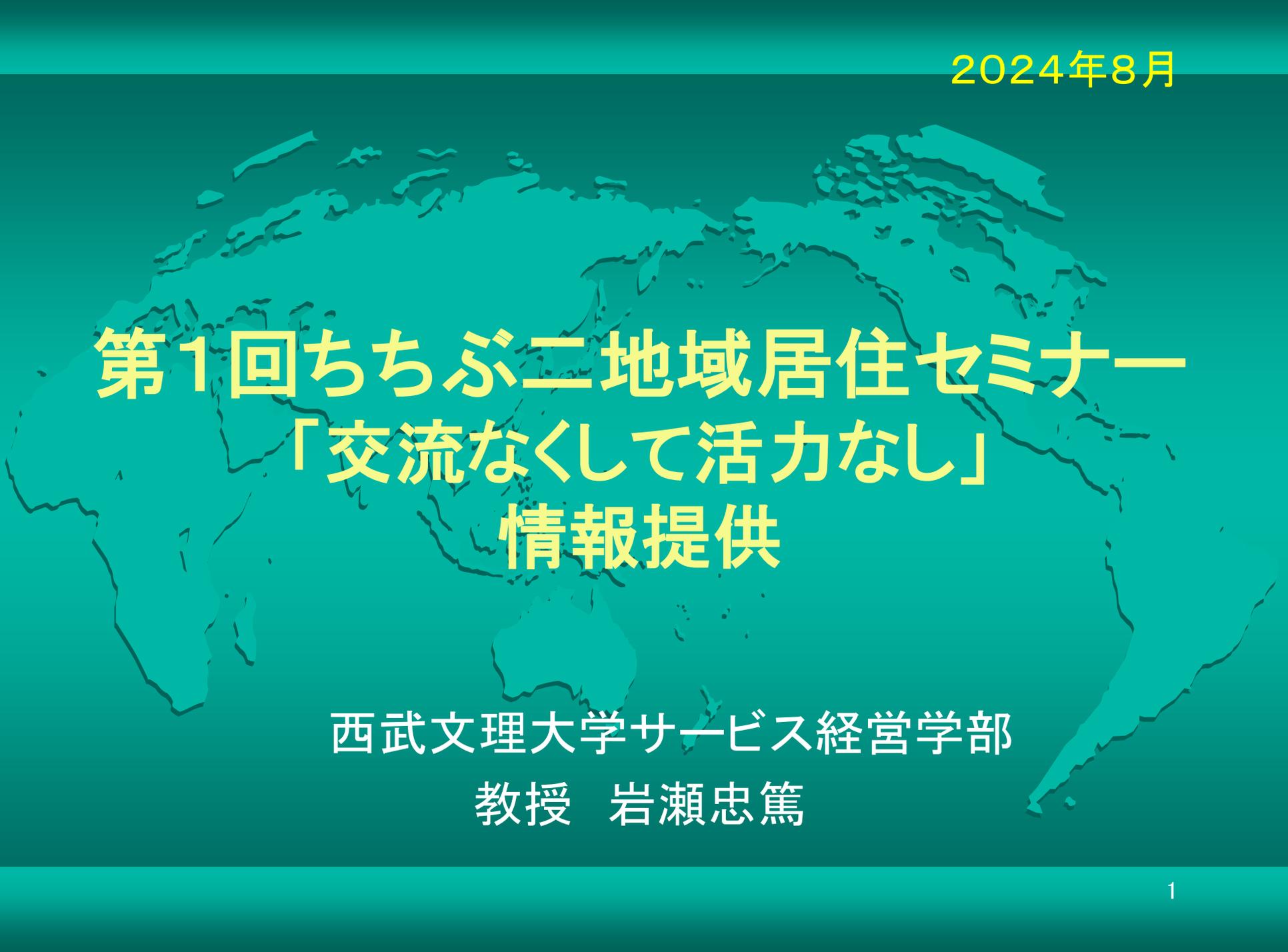


2024年8月



第1回ちちぶニ地域居住セミナー 「交流なくして活力なし」 情報提供

西武文理大学サービス経営学部
教授 岩瀬忠篤

秩父地域の「地域デザイン」(1)

(解剖学者 養老孟司先生の提言)

読売新聞オンライン(2024/05/14)

[ニッポン 2050]活力ある幸福な社会へ
地域ごとに自給自足

- ・都市への人口集中が解消され、人々が地域ごとに食糧やエネルギーを自給自足して暮らす。僕は、2050年の日本の望ましい姿をそんなふうを描いている。
- ・(中略)まず考えなければならないのは、天災への備えだ。

秩父地域の「地域デザイン」(2)

(解剖学者 養老孟司先生の提言)(続き)

・自活する力が重要になる。都会的なシステムに依存せず、自分と身の回りの人で、食糧やエネルギーなどを自給自足しながら生活を持続させる。(中略)一つの地域も、そんな生活に見合う、小さなサイズが適切だ。

・近年、あらゆる場面で人工知能が取り上げられているが、そもそも世界に80億ある頭脳を上手に使えているのか。高度なテクノロジーもいつ天災などで頼れなくなるか分からない。

秩父地域の「地域デザイン」(3)

(解剖学者 養老孟司先生の提言)(続き)

・僕は以前から、都会に住む人は地方にセカンドハウスを用意した方がよいと提案してきた。でも、今は、間違いなく、未来を生きていくための方法だと思っている。(下線は岩瀬追加)

・合理性、経済性、生産性を追求してきた時代とは、全く逆の方向に進んでいくはずだ。一人一人が実感を持ち、暮らしを足元から積み上げていく。それぞれが自活し、居心地の良い日常を送れるようになれば、未来は平和だといえる。

秩父地域の「地域デザイン」(4)

「第五章自然の中で育つ、自然と共鳴する」
(都市以外の場所で一定期間過ごす)

「私はさまざまな本で「現代の参勤交代」を提唱してきました。都会の人が、たとえば一年に一カ月でもいいから、田舎の過疎地に滞在し、身体を使って働いたり、のんびりしたりできるようにするのです」(下線岩瀬追加)

(出典) 養老孟司『ものがわかるということ』祥伝社(令和5年2月10日)

秩父地域の「地域デザイン」(5)

（続き）「都市についての考え方が変わってくるかもしれません。過疎になった地域も生き返る。それこそ、日本全体の国土の再生になります」

「他にも重要な効用があります。日本は災害列島ですから、……だから、参勤交代しながら、自分の田舎をつくっておくのです」（下線岩瀬追加）

（出典）養老孟司『ものがわかるということ』祥伝社（令和5年2月10日）

秩父地域の「地域デザイン」(6)

((株)ふるさと回帰総合政策研究所代表
取締役社長 玉田樹氏の提言)

『地方に社会システム産業をつくる 副業とIoT
パワーを活用して』(2020年5月20日)

- ・Part 1 地方の所得格差を埋める「新しい産業」のありか
- ・Part 2 社会システム市場と「社会システム産業」
- ・Part 3 IoTを使って「社会システム産業」をつくる
- ・Part 4 副業パワーで地方に「社会システム産業」をつくる

秩父地域の「地域デザイン」(7)

((株)ふるさと回帰総合政策研究所代表
取締役社長 玉田樹氏の提言)(続き)

・Part 4 副業パワーで地方に「社会システム産業」をつくる

第14章 「二地域居住」政策の推進

1節 副業者の「二地域居住」を政策の柱に据える

2節 第2住民票の制度化

3節 起業の場づくり

4節 「住まう場」の確保

5節 「二地域居住推進法」の制定

秩父地域の「地域デザイン」(8)

(国土交通省国土計画局計画官として提言)

- ・都市と農山漁村の「二地域居住」への提言ー多様なライフスタイルを求めてー(平成17年(2005年)7月)
- ・異質文化交流による地域活性化を目指して～交流なくして活力なし～(平成18年(2006年)2月)

(参考)

- ・千葉大学法経学部総合政策学科助教授(2002年～2004年)(経済企画庁より出向)
- ・シンガポール東南アジア研究所(ISEAS)客員研究員(アジア経済研究所より派遣)(1992年～94年)

秩父地域の「地域デザイン」(9)

「国土交通省国土計画局計画官として提言」と
現時点の比較(20年間)

・デジタル環境の大変化(リモートワーク等の普及)

・副業・兼業関連の意識・制度的な変化

(「団塊の世代」のニーズに加えて、「産業志向」も)

・災害への意識の高まり

(東日本大震災、熊本地震、能登半島地震等)

・外国人への考え方の変化(「異質文化交流」からインバウンド等の外国人との日常的な関係へ)

秩父地域の「地域デザイン」(10)

(提言)

- ・「交流人口」、「二地域居住人口」(関係人口)を意図的に増加させる仕組みが必要
- ・インバウンド等の外国人を含むグローバルな交流をさらに展開していくことが必要
- ・その際、「秩父地域は地震に強い！」という地震に対する優位性(秩父市役所資料)や東京等からのアクセスの良さをアピールすることが重要

秩父地域の「地域デザイン」(11)

(提言)(続き)

・「二地域居住」という「セカンドハウス」に加えて、企業のオフィスや研究施設(ラボ)といったものに対して、地震対応を含めた「セカンドオフィス」や「セカンドラボ」といったものを秩父地域に誘致・展開することはできないか

(まとめ)

・以上の観点から、秩父地域は「二地域居住」等の最適地たる要件を十分満たしている

秩父地域の「地域デザイン」(12)

(秩父地域で西武文理大学が貢献できること)

・秩父地域を中心とした「地域デザイン型」のアクティブラーニングのための交流拠点として新たに「ちちぶ伝習館」を設置する(9月6日開館式、秩父郡皆野町Mahora稲穂山の建物)

・「インバウンド観光トライアングル構想」や「二地域居住」等に関する調査研究を行うこと

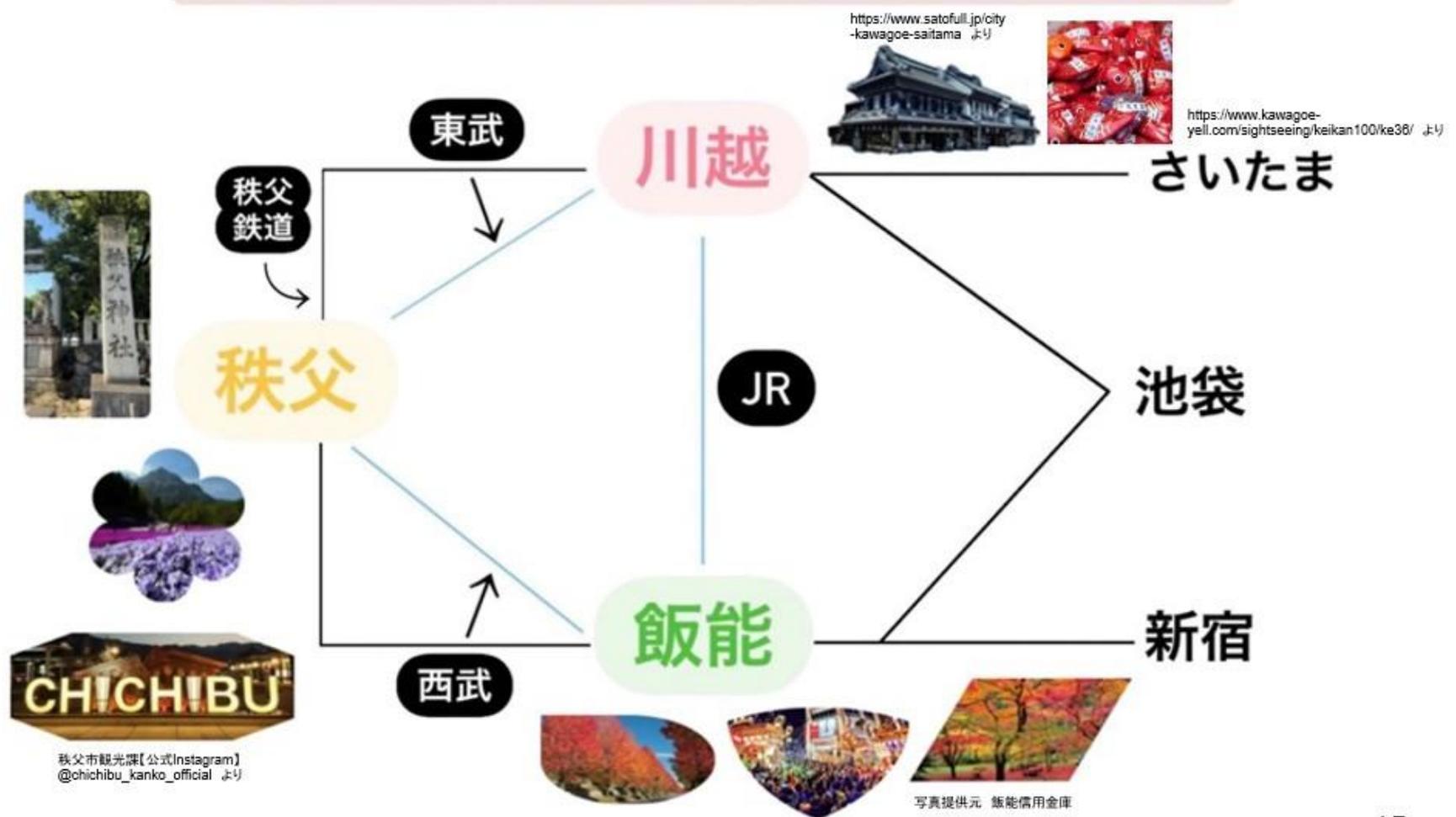
秩父地域の「地域デザイン」(13)

「ちちぶアクティブラーニング」イメージ

- ・留学生を含む学生によるインバウンド等の外国人に関する調査と提言・実行
- ・「ちちぶアンバサダー」を含む秩父地域を中心とした地域企業との協働活動
- ・「Mahora稲穂山」の多様な活動との協働活動
- ・埼玉県の「ボランティアアーツリズム」や秩父市の「TENJIKU秩父」等の地域課題解決のための共同作業の実施

インバウンド観光トライアングル構想(川越・秩父・飯能) のイメージ図

インバウンド観光トライアングル 構想 (川越・秩父・飯能)



2024年度秩父地域活動予定(岩瀬忠篤)

8月28日(水): 第1回「ちちぶ二地域居住セミナー」

9月6日(金): 「ちちぶ伝習館」開館、第3回「ちちぶ地域デザインセミナー」(西武学園文理高等学校・中学校マルケス校長特別講演、埼玉県秩父郡皆野町Mahora稲穂山)

10月26日(土): 第4回「ちちぶ地域デザインセミナー」(インバウンド観光トライアングル構想(川越・秩父・飯能)と「ちちぶ伝習館」及び皆野町の紹介等(国際インドネシア語教育協会日本支部事務局長宮下・クットリル・イメルダ先生特別講演等、ホスピタル(西武文理大学学園祭))

2025年3月: 第5回「ちちぶ地域デザインセミナー」(スコットランド・イベント(都筑理事ご紹介)、秩父地域一帯)